



# 校長室だより

校長 山崎 聡子

## 子供たちの学びの姿

子供たちの声を聴きたい、考えや思いを知りたいと思い、日々学校の中を回り、子供たちの理解に努めています。また、教職員は、様々な工夫をしながら子供たちの学びを支えることに努めています。今回は、子供の学びの姿を2つご紹介します。

1つ目は、支援学級での出来事です。支援学級で、2つのグループに分かれてすごろくを行っていました。すごろくという活動は、ふったサイコロの目に合わせて自分のコマを動かし、コマの場所を書いてある内容を皆で共有していくという、子供たちにとって楽しい活動です。でも、ただ楽しいだけでなく、その中にはたくさんの学びが取り入れられていて、活動を通して学ぶ子供たちの姿がありました。

まず、サイコロをふった後に、サイコロの目の数を確認します。その数を数詞として皆で唱えていきます。唱えた数詞の分だけコマを動かします。一連の活動が、数の概念を創り上げることに繋がる学びとなっていました。算数の他に、国語の学習も行っていました。サイコロをふる次の友達がコマを進めた友達のコマが止まった所を書いてある内容についての質問をします。答えてくれた言葉を付箋に書いて貼る所までその友達の役割です。その後、全員で、答えた言葉の音の数を手拍子で確認します。拗音（きゃ・きゅ等）は1音、促音（小さなっ）は1音、撥音（ん）は1音、長音（ーのばす音）は1音という内容も取り入れた学習です。子供たちは、友達とのや

りとりの中で、多くの言葉に触れることができ、語彙を増やしていくことに繋がる時間となっていました。さらに、算数や国語の学習だけでなく、ルールを理解し、約束を守って遊ぶすばらしい子供たちの姿もありました。

2つ目は、5年生の算数の授業での様子です。三角形の内角の和が180度であることを使って多角形の内角の和を考える学習をしていました。七角形、八角形の内角の和を出すために、子供たちは様々な考え方をしていました。七角形の中に三角形5つ八角形の中に三角形6つ見出して、内角の和を導き出す子供。七角形の中に四角形1つと三角形3つ、八角形の中に四角形1つと三角形4つ見出して、内角の和を導き出す子供。それぞれが、自分の考えたやり方を図に線を書き入れながら説明していました。その説明を子供たちが真剣に聴いている姿がすばらしいと思いました。友達の考えを聴くことで、自分の考えに広がりやうまれていくと考えます。すてきな学びの姿でした。自分のやり方を追求し答えを導こうとする子供の姿もありました。七角形の中に三角形を7つ、八角形の中に三角形を8つ見出し、中に集まった不必要な角度である360度を引くという考え方。四角形の内角の和の学習で、三角形を4つにすると中に不必要な360度ができるため、それを引くという学びを事前に学習していたという担任の話聴き、既習を活用し、試行錯誤しながら、学習に取り組んでいたのだと知りました。粘り強く考え、答えを導き出し納得している姿がすばらしかったです。